

函館市が大正11年に市制を施行してから、今年でちょうど100周年を迎えます。

この記念すべき年にあたり、先人から受け継ぎ、市民一人ひとりが力を合わせて築き上げてきた函館のあゆみを振り返りながら、さらに輝かしい未来へ向かっていけるよう、市民の皆さんとともに、考えていきたいと思ひます。

## すべてのひとにやさしいまちへ

人口減少や少子高齢化など、私たちが取り巻く環境が変化し続けるなかで、年齢、性別、障がいの有無に関わらず、市民一人ひとりが互いに尊重し合いながら、個性や能力を發揮し幸せを実感できる、すべてのひとにやさしいまちを皆様と一緒に創り上げていきたいと考えています。これからも、先人たちが長い歴史の中で築き育んできた函館の魅力を守りながら、市民の誰もが活気に満ち、笑顔あふれ、心豊かに安心して暮らせるまちづくりを目指していきます。

国内初の国際貿易港として開港して以来、諸外国との交流を通じて個性豊かな文化や伝統を創り上げてきた函館は、水産業や造船業を中心に繁栄し、異国情緒あふれるまち並みや函館山からの夜景に代表される観光のまちとして発展してまいりました。

函館市は、大正11年8月に市制を施行し、本年100周年という大きな節目を迎えました。



函館市長  
工藤 壽樹



第1回港まつり（昭和10年）



昭和9年の大火後の市街地



市制施行時の市庁舎（大正11年）



○市制施行当時の函館  
面積 19.05km<sup>2</sup>  
世帯 33,306世帯  
人口 146,855人

○現在の函館  
(令和4年6月30日現在)  
面積 677.87km<sup>2</sup>  
世帯 140,653世帯  
人口 246,014人

年次	世帯数	人口	備考
大正11年(1922年)	33,306	146,855	市制施行
大正14年(1925年)	33,318	163,972	国勢調査
昭和10年(1935年)	39,196	207,480	国勢調査
昭和22年(1947年)	43,486	211,441	国勢調査
昭和30年(1955年)	50,361	242,582	国勢調査
昭和40年(1965年)	63,964	243,418	国勢調査
昭和50年(1975年)	96,723	307,453	国勢調査
昭和60年(1985年)	110,703	319,194	国勢調査
平成7年(1995年)	119,277	298,881	国勢調査
平成17年(2005年)	128,411	294,264	国勢調査
平成27年(2015年)	123,950	265,979	国勢調査
令和2年(2020年)	121,793	251,084	国勢調査

# 今年は、市制施行100周年

## 未来へつなぐ100年

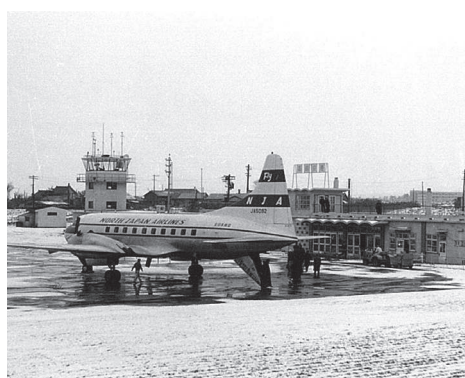
人々の価値観が多様化し、刻々と社会情勢が変化するこれからの時代には、様々な課題に目を向けた施策の充実が一層求められております。市議会といたしましても、愛する郷土函館を、未来の市民に誇りを持って引き継ぐことのできるよう、今後とも不断の議論を積み重ね、市民の皆様への信頼と負託に応えるため、精一杯取り組んでまいります。

これまで、幾多の困難を乗り越えながら、魅力あるまちづくりが進められてきたことは、本市の礎を築かれた先人たちのご努力の賜物であり、衷心より敬意と感謝を申し上げます。第であります。

本市は、大正11年に市制を施行し、昭和、平成、令和へと続く時代の中を、南北北海道の中核都市として、弛むことなく着実に発展を続けてまいりました。



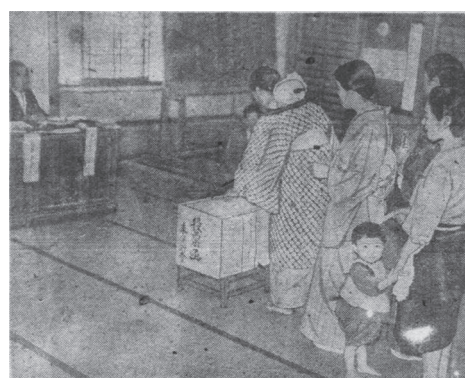
函館市議会議員長  
浜野 幸子



プロペラ機時代の函館空港（昭和35年空港完成）



独航船の出漁見送り風景（昭和27年）



最初の市長公選投票風景（昭和21年）

昭和	大正
▼35年 函館空港完成、函館〜札幌間運航開始。	▼11年 市制施行。第1回函館市会開く。
▼33年 函館山ロープウェイ運転開始。	▼13年 青函航路に新鋭連絡船就航。
▼29年 台風により青函連絡船「洞爺丸」沈没。	▼15年 函館〜東京間長距離電話開通。
▼28年 函館山登山バス運行開始。	▼4年 駒ヶ岳大噴火、付近の被害甚大。
▼27年 北洋漁業サケ・マス漁再開、戦後最初の出漁（3船団、独航船5隻出漁）	▼8年 新川に最初の不燃質の橋、昭和橋完成。
▼26年 千代台公園に市宮野球場完成。	▼9年 函館大火。3月21日住吉町から出火、死者2166人、約2万戸が焼失。
▼25年 函館市文化賞制定。市宮競輪開始。広報紙「市政はこだて」創刊。	▼10年 7月1日を開港記念日と定め、第1回港まつりを行う。左巴を市徽章と定める。
▼21年 最初の市長公選（坂本森一氏当選）。戦時中、中止していた港まつりが復活。	▼13年 函館市大火慰霊堂落成。
▼20年 7月14日・15日、米軍が函館を空襲。死者477人、約400戸が焼失。	▼14年 湯川町と合併。
▼18年 民営の電車・バス事業を市営とする。	▼17年 国鉄函館駅新築落成。

函館・100年のあゆみ



国宝に指定された中空土偶（平成19年）



最後の青函連絡船、函館棧橋を出港（昭和63年）



開港150周年記念イベント（平成21年）



青函トンネルの一番列車出発式（昭和63年）



140年前の姿に復元された箱館奉行所（平成22年）

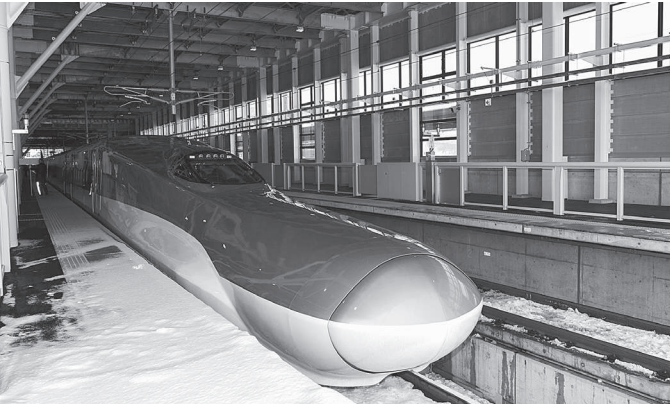


戸井町・恵山町・楳法華村・南茅部町との合併協定調印式（平成16年）

平成

昭和

- ▼17年 北海道新幹線（新青森～新函館間）建設と合併。
- ▼16年 戸井町・恵山町・楳法華村・南茅部町合併。
- ▼15年 総合保健センター、新函館競輪場開設。JR函館駅新駅舎オープン。
- ▼13年 中国の天津市と友好交流都市提携。館病院開院。特別市に移行。
- ▼12年 公立はこだて未来大学開学。新市立函館競輪場開設。
- ▼9年 世界星形城郭サミット開催。ロシアのユジノサハリンスク市と姉妹都市提携。
- ▼5年 北海道南西沖地震発生。
- ▼4年 ロシアのウラジオストク市、オーストラリアのレイク・マコーリー市と姉妹都市提携。
- ▼3年 第1回函館ハーフマラソン大会開催。国体「水泳競技・自転車競技」開催。
- ▼元年 青森市とツインシティ提携。はまなす船が終航。青函トンネル開通記念博覧会開催。
- ▼63年 JR津軽海峡線開業、同時に青函連絡船が終航。青函トンネル開通記念博覧会開催。
- ▼57年 市の新庁舎完成。カナダのハリファックス市と姉妹都市提携。
- ▼52年 函館市民憲章制定。
- ▼51年 ソ連のベレンコ中尉、ミグ25型機で函館空港に強制着陸。
- ▼50年 市民体育館開館。中央卸売市場開設。
- ▼48年 亀田市と合併。
- ▼45年 市民会館開館。
- ▼41年 銭亀沢村と合併。



北海道新幹線 新青森駅～新函館北斗駅間の開業 (平成28年)



第1回はこだてグルメサーカス (平成24年)



第1回函館フルマラソン大会 (平成28年)



函館市国際水産・海洋総合研究センター (平成26年)



「北海道・北東北の縄文遺跡群」の世界遺産登録決定 (令和3年)



市民会館に隣接して建てられた函館アリーナ (平成27年)

令和

平成

- ▼30年 若松埠頭岸壁の暫定供用開始。
  - ▼29年 函館コミュニティプラザ（Gスクエア）がオープン。
  - ▼28年 北海道新幹線新青森駅～新函館北斗駅間が開業。第1回函館フルマラソン大会を開催。はこだてみらい館、はこだてキッズプラザがオープン。
  - ▼27年 函館アリーナ、フットボールパークがオープン。
  - ▼26年 函館市国際水産・海洋総合研究センターを開設。
  - ▼24年 はこだて療育・自立支援センター開設。はこだてグルメサーカスを初開催。
  - ▼23年 東日本大震災発生。函館市自治基本条例施行。韓国の高陽市と姉妹都市提携。縄文文化交流センター開設。
  - ▼22年 箱館奉行所開館。
  - ▼21年 函館開港150周年記念式典挙行。
  - ▼19年 地域交流まちづくりセンター、臨海研究所開館。「中空土偶」が国宝に指定。
- 設置工。中核市に移行。大門横丁オープン。
- ▼3年 函館新外環状道路赤川IC～函館空港IC間が開通。旧函館区公会堂がリニューアルオープン。函館市の史跡垣ノ島遺跡と史跡大船遺跡を含む「北海道・北東北の縄文遺跡群」がユネスコ世界遺産に登録される。